

第2回 三村小・玉穂南小学校区 中央市立学校再編協議会 議事録

1 日 時 令和7年10月28日(火) 19:00~21:10

2 場 所 中央市役所

3 出席者

【委 員】 15名 (欠席者 2名)
【事務局】 3名

1. 開会

2. 議事

(1)協議事項(事務局から以下の点について説明)

- ・これまでの検討内容
- ・両校の現状について
- ・人口推計について
- ・統合に関わる統計情報(位置、通学手段の変化)
- ・校舎建築費用に関わる統計情報(建築単価、校舎の大きさ)
- ・統合・長寿命化改修のメリット・デメリット

会長

事務局から資料の説明があった。本日の協議会である程度の結論を決定したいと考えている。統合するのか、長寿命化改修でいくのか、二者択一の選択となる。

三村小学校は老朽化が目立つが、長寿命化改修計画における実施予定年度はいつか。

事務局

平成30年度に作成した当初の計画では、令和7年から長寿命化改修工事を開始予定であったが、他校の改築工事の遅延により1年延長した。また、昨年度からあり方を検討しているため、さらに工事着手を1年延期している。

会長

三村小学校については、すでに改修予定時期を迎えてる校舎だということなので、そのことを含めながら、今後どのように進めていくかについて、お一人お一人の意見をお聞きしたい。

A 委員

三村小学校では、8月末に低学年棟で天井材が落下する事故があった。事故による怪我人はいなかったが、児童の安全性を最優先で考えると、1日でも早く安全な校舎を整備し、子どもたちが安心して学べる環境を提供していただきたいと考えている。

事務局

事故について補足する。天井材の一部が落下したため、早急に教室内にある同様の構造部分を点検し危険性がある所はすべて撤去し、安全性を確保した。ただし、現状では廊下部分に安全だと言い切れない部分があり、立入禁止措置を取っている。今後、専門業者による再度の安全点検を実施し、補修を進める予定。三村小学校だけでなく他の学校でも同様の問題が発生する可能性があるため、早期の点検実施を検討している。

B 委員

今回の事故を受けて、三村小学校運営協議会では長寿命化を進め、1日でも早く安全な学校を実現することが重要だという意見がでた。事業完了までの期間が一番早い方法が資料に記載してあるが、ぜひそのような形で、玉穂南小学校の方々にご賛同いただきたい。

会長

長寿命化改修工事は設計から完了まで何年かかるのか。

事務局

完成まで概ね4年程度かかり、事業着手から2年以内には仮設校舎への移転が可能となる見込み。

C 委員

三村小学校が長寿命化改修を希望していることを初めて聞いた。また、今回の資料を拝見、説明をうけたが、どちらを選ぶべきか判断がつかない。

確認だが、三村小学校運営協議会では長寿命化改修をお願いしたいというのは、統合しないという意味でよろしいか。

D 委員

最初は統合を考えていたが、最優先は子どもの安全で、学校運営協議会のなかではやはり長寿命化改修にするべきだという意見がでた。

C 委員

将来を考えた場合、長寿命化を選択することが、三村小学校の子どもたちにとって本当に良いのかは疑問だ。

B 委員

可能であれば、長寿命化改修ではなく新築を希望している。

三村小学校の運営協議会で統合を進める意見が出た際、「玉穂地区の真ん中に校舎が建つだろう」と暗黙の裡に思い賛成した。今回統合決定に際し、本協議会に統合校の建設場所について決める権限を持たせていただきたい。

私としては、三村小学校の敷地に統合校を建築することを望んでいる。周辺には図書館、保育園、B&Gプール、学童保育、総合会館があり、この環境を失うことは避けたい。このような良い環境に小学校を建てない理由がわからない。三村小学校の敷地に統合新築しないのであれば、仮設校舎に早急に移転できる長寿命化改修を進めてもらいたい。

E 委員

三村小学校の総意として長寿命化改修を決定しているのであれば、統合を希望する意見があっても、これ以上協議を続けても結論が出せない状況が続くのではないか。

会長

今、三村小学校が非常に切迫した状態にあることはよく理解した。三村小学校は玉穂地区の中心に位置しており、その敷地に統合後の新校舎を建てるのが一番良いのではないかと個人的には思う。

本協議会では報告書を提出するが、設置場所も含め報告書の内容のとおり市として事業を実施するかは、財政状況なども含め、市のトップが最終的に判断することになる。

F 委員

結局、最終的な判断は上の方が下すことになるので、ここでいくら話し合っても、実施されないのであれば皆で議論した意味がなくなってしまう感じる。

事務局

本協議会の目的は、保護者や地域の方、学校関係者の意見を集約し報告書を作成して教育委員会に提言することにある。皆様からいただいた貴重な意見をまとめ報告書を作成し、教育委員会ではその報告書を受けたうえで協議し、市当局へ報告させていただく。

E 委員

本協議会において、地域の教育関係者である私たちが意見を集約できたのであれば、それは非常に重いものだと思う。その意見とは逆の結果が生じるようなことはないと信じている。

先ほど事務局から、仮設校舎の建設にも時間がかかり、新築の場合はそれ以上の時間がかかるかもしれないと説明があった。ここで意見集約にあたって、子どもたちの安全を最優先に考えた結果として、「早急に校舎の建設に取り掛かること」など、強く申し入れを行えばいいのではないか。

老朽化を理由として長寿命化改修を選ぶ前に、教育委員会に対して、現在の校舎の安全性確保を最優先で対応するよう強く要望する方がいいのではないか。

C 委員

人口減少を踏まえた2校の統合の話と、天井材が落下した件は別の問題として考えるべきではないか。老朽化した校舎を長寿命化改修して残すことが、長期的に見た場合、子どもたちの気持ちや地域に良い影響を与えるかについては疑問がある。

校舎が老朽化しているからと言って、そのために長寿命化改修を選ぶ理由の優先順位を高くする必要はないのではないか。

G 委員

様々な地域で統合の議論がされているが、現段階では山間地をはじめとする地域

が統合を進めている。県内では市街地にある学校での検討はまだ進んでいないのが現状。このため、現時点での議論は先取りしたものだと感じている。

これまで、総論として統合の方向になっていると思うが、ほかのところで聞いている話では最終的に各論に入ると、意見が分かれことが多い。それは地域にとって学校の存在が非常に大切にされているからだと思う。山間地では統合によって学校までの距離が長くなり、バスでの移動が避けられなくなるが、玉穂地区はそういう段階ではないので、統合の議論が十分に成り立つと思う。

現在、三村小学校は 17 クラスを持ち、教頭を含む 20 人の教員が配置されている。このまま児童数が減っていき、各学年 1 クラス、特別支援 2 クラスとなった場合 10 人での運営となり、交換授業すら実施できない状態になる。嫌いな先生がいても、1 日中、そして 1 年間同じ先生とすごしていかなければならなくなる。

山梨市では義務教育学校を進めている。中学の教員が小学校を担当し、思春期を迎える小学 4~6 年生に対して、多様な視点を提供できる学校の仕組みを作っている。様々な人の目で見ることが大事であり、隣のクラスまたは違う学年の先生が授業を交換する、違う人が教えることが教育的に価値がある。そのことが小学校 4~6 年生にすごく大事だと思う。

いじめや不登校のアンケート結果には、教員との関係が原因となっているケースも少なくない。我々も非常に幅広い視野を持って物事を見たいと考えているが、指導を行った際に、それが本当にふさわしいかどうかは、他の人が見たら異なるかもしれない。互いに共有共同して学校運営を進めていくことが教員数の減少によりかなり厳しくなる。

玉穂中学校区の小学校が 1 クラス 10 人になるまでには、30 年ほどかかると予想されるが、10 年後には、1 クラスの人数が 35 人以下になる。ぎりぎり 1 クラスか 2 クラスの学校が増えていき、ほとんどの学校が学年 1 クラスになる想定。

来年の玉穂中学校の新入生数の予測は 112 人で、国の基準では 3 クラス編成となる。玉穂中学校では、学年 4 クラス以上の維持が難しくなっている。10 年後には、現在の出生率を考えると、2 クラスになると予測される。合唱発表会などの行事を豊かに行うことができるのか、非常に疑問。

児童が少ないことは、より多くの目をかけられるという見方もできるがそれは、本当に目が届く範囲の少人数の場合。30 人程度のクラスが 2 つあるような中途半端な規模の場合、教師の負担は増え、全員に十分な配慮を行き届かせるのが難しくなることがある。

思春期を迎える子どもたちへの指導は難しく、教員が疲れやストレスから体調を崩すこともある。その際、校内で代替教員の確保が難しいのが小さな学校。教員数の観点からも子どもたちにとって本当に良い結果を生むのかを各論を通じて再考する必要がある。

児童が減少する中で、教育において人と人との関わりを豊かにすることが重要だが、その関わりを担う教員が減少することが、本当に子どもたちの教育にとって充実したものになるのかは、今後すべての地域で直面する問題。そのため、子どもたちを中心に据えた議論を行い、どのような学校を造りたいのか、そしてその実現のためにどのように進めていくべきかについて、しっかりとお互いに話し合い、考えていく必要がある。

この議論は、数年後には全国的にどの地域でも考えなければならない問題となるだろう。特に、甲府市の中心部では学校の生徒数が減少しており、都市部でも同様

の課題に直面している。したがって、子どもたちを中心に、どのような学校を造りたいかということを議論し、さらに、10年後、20年後も子どもたちを取り巻く環境がより豊かになっていくためにはどうすべきかを、ここで未来に向けて話し合っていかなければならないと考えている。

E 委員

三村小学校の委員は学校運営協議会の意見を集約して今日ここに集まっており、現段階で協議会として結論の決定は難しいと感じている。持ち帰って再検討することができるか。

また、学校の立地は重要で、子どもたちが安全に通える場所に設置することが大切。行政側もその希望を考慮すべき。例えば、豊富小学校を将来的に統合する際には、小さな子どもたちが通いやすい場所、例えば中学校の隣に施設を建設するのが良いのではないかと考えている。公共の視点からも、地域の希望を伝えることは重要だと思う。先ほどお話しいただいたように、さまざまな施設が集まり、中心的な位置にあることには意味があるという理由で、こうした場所にしたいという希望をしっかりと伝えるべきだと考える。

会長

協議会として場所の選定は行うべきだと思うし、それを報告することに問題はない。協議会の全員が同意すれば、その場所を含めて報告することが可能である。

事務局

本協議会では、まず統合か長寿命化改修かの方向性を決定し、それに対して要望や希望をまとめ報告書を作成する。例えば長寿命化改修を要望するときにも、早く仮設校舎を建てて欲しいというご要望があってもよいと考える。皆さんが考える上で、書いて欲しいことや、こうして欲しいという要望があれば、ぜひ意見をいただきたい。ただし、会長からも説明があったが、本協議会で決定したことが必ずしも100%実現できるわけではない。最終的な決定は、市民の負託を受けた市議会や市長が行うこととなる。

B 委員

先ほどから建設地の重要性について協議しているが、決定前に、もう一度この会議に諮ってもらえないか。要望だけを聞いて、本協議会以外の場所で最終決定がされるのは納得できない。場所の決定に関しても、ある程度の権限を与えていただきたい。具体的な場所は言えないが、範囲としてこの辺りという程度かまわないので決定する権限をいただけないと、これ以上話を進めることはできない。

会長

要望として、場所について適當だと考える場所を報告書に記載することは可能。しかし本協議会にそれを実現させるだけの権限はない。

C 委員

この協議会は、私たちの意見を聞いてくれている場であると認識している。どのような学校を望むかを話し合うことが重要。場所ももちろん重要だが、最も大切な

のはどのような学校を造るかという点であり、通学距離に関しては二の次、三の次の話ではないかと思っている。

G 委員

玉穂南小学校は三村小学校から分かれた経緯があるため、流れとしては三村小学校に統合するのが理想的だと思う。

ただ、三村小学校で統合する際の問題点は、グラウンドが狭く、駐車場も小さくて使いづらい。街の中心部に位置するにも関わらず、児童の送迎の際に路上駐車が行われている状況がある。どこに統合するかについて固執しすぎると、議論が本来の目的、すなわち子どもたちのためから逸れてしまう危険性がある。ただ、子どもたちのために広い敷地を確保できるのであれば、それはそれで最良の選択肢だと思う。

また、両校の間は2kmも離れていないので、どちらの学校に通うことになっても大きな距離的な不便はないのではないか。中央市のこの近接している2校の特性をうまく活用することが、最終的に子どもたちのためになると思う。

本当に重要なのは、「どこで統合するか」ではなく、「子どもたちのために最適な環境」を整えることではないか。もし「ここでなければならない」という強いこだわりが出てくると、議論が本来の目的から外れてしまう危険がある。

E 委員

建設地は非常に重要な問題だが、私たちに与えられている役割は、統合か長寿命化改修のどちらを行うかを協議することまで。しかし、希望を伝えることは十分にできると思う。協議したうえで、場所についての根拠をもとに「ここに建ててほしい」という意見を出すことは非常に大切だと思う。また、一つの意見に絞らなくても、出た意見をまとめて「こういった意見が出ました」という形で伝えることも重要ではないか。教育関係の代表として選ばれている私たちの意見を伝えることは意味がある。

会長

それぞれの立場からご意見を頂き、ありがとうございます。現時点では結論が出ないと思う。もう一度持ち帰る機会を設け、その上で結論を出す方向で進められればと思うが、ご了承いただけるか。

H 委員

三村小学校の学校運営協議会では、長寿命化改修の方向に進んだが、長寿命化改修ではなく、新築・統合を進めたい思いは以前からあった。再度持ち帰ったとしても、校舎がどれくらいの期間持つかという点が明確にならない限り、統合新築が望ましいとは思いつつも、同じ結論になると思う。

E 委員

現状の校舎について子どもたちや保護者の不安は理解できるが、長寿命化改修を決定しても、すぐに安全が確保されるわけではない。天井の応急処置は行ったがそれでも不安が残るのであれば、協議会での議論とは別に、現在の安全性を確保するために教育委員会と今後の予算や対応について相談することが重要だと思う。

B 委員

最初は統合で意見が一致していた。しかし、予想以上に三村小学校校舎の老朽化がひどく、簡単な補修では修復できるとは考えられない。長寿命化改修よりも統合新築が理想的だが、現実的にそれが難しい場合は、長寿命化改修を選択せざるを得ない。

H 委員

校舎がどれくらいの期間使えるのかが分かってくれれば、話は全く違ってくると思う。

E 委員

とにかく、今最も心配しているのは子どもたちの安全であり、教育委員会と話し合いを持つことが重要。補修について業者と教育委員会がしっかりと協議を行うことが、子どもたちの安全を守るために不可欠。現時点で分からぬことが多いため、ここで議論を重ねても解決が難しいのではないか。現場を直接見ている教育委員会、業者、学校関係者がしっかりと話し合うことが必要。

事務局

長寿命化改修を行う場合は仮設校舎を建設する計画。そのため、引越しのタイミングで現校舎は使用しなくなり、安全な建物に移動ができる。

新築統合で、新しい学校を別の敷地に建てる場合、仮設校舎を建てる必要がないため、基本的には建設しない。ただし、「早急に対応してほしい」「危険だから何とかしてほしい」というご要望があつたり、建物の安全性を評価した上で、危険性が確認されたりした場合は、適切な対応を検討する必要がある。

もし現在の校舎を使用し続けたくないのであれば、仮設校舎を建てるのが最短となる。例えば、統合を進めて仮設校舎を建てるという選択肢も一つの方法だとは思う。

H 委員

事務局の言われた通りだと思います。話を持ち帰った際には、皆さんのが心配されていることを踏まえて、今の事務局の話を基に再度話し合いを行いたいと考えています。

C 委員

要するに、「仮設校舎を建設して、まず子どもたちを避難させ、早急に今の校舎を使わなくて済む状況を作ることが最優先である」という理解でよいか。

I 委員

天井材の落下後に行われた教育委員会の点検調査結果が、先日の学校運営協議会に間に合わなかったため、説明ができなかったことが不安材料となっているのではないか。現校舎が安全であるという前提のもと、統合の是非について話し合う余裕がなかったのだと思う。

事務局

点検業者には緊急性の高い問題があればすぐに報告してもらうことになっている。現時点ではそういった報告はない。しかし、教育総務課として十分に確認できず学校に正確に伝えられていないことは問題だと感じている。

何も情報がない状態だと判断に困る場面が多くなると思うので、情報提供については責任を持って対応させていただく。三村小学校運営協議会の開催に際しては、必要な説明や資料を提供させていただく。

会長

何も分からぬ中では不安もあるかと思うので、教育委員会から学校運営協議会で調査結果の説明を受け、その後、学校運営協議会で協議を行うのが良いと考える。ぜひ、もう一度お持ち帰りいただき、検討をお願いしたい。

J 委員

長寿命化改修工事を実施すれば、三村小学校のように古い校舎でも安全で使いやすい校舎に生まれ変わらるのか。

G 委員

校舎はきれいにはなるが、建物の構造自体は変わらない。三村小学校の場合、職員室から校庭が見渡せない点が問題であり、建物の配置にも課題がある。基本的な枠組みは変えられないため、改善は難しいのではないか。長寿命化改修では、間取りを変更することはできない。

事務局

建築基準法等の法令をクリアした建物になるため、基本的には長寿命化改修を行えば安全な建物になる。長寿命化改修工事だけでは使い勝手の改善には限界があるが、田富小学校では職員玄関と児童昇降口の位置を変更するために一部解体・増築を行い、問題を解決した。増改築工事を併せて実施することで配置変更は可能であり、要望があればそれに応じた設計ができる。具体的なイメージが湧かない場合は、田富小学校を見学してはどうか。

B 委員

噂話で申し訳ないが、玉穂南小学校の敷地に統合されるということを聞き、非常に驚いた。できれば、街の中心に新しい校舎を建設してほしいと思っている。

K 委員

「玉穂地区の中心」というのであれば、均等な距離を保った場所に建てるべきだと思う。

C 委員

玉穂南小学校の検討会議でも最初は統合に反対する意見が多かった。「玉穂南小学校は三村小学校から分かれた学校だから、三村小学校に吸収されて玉穂南小学校がなくなる」と考え、それに反対という立場を取っていた方が多かった。結局、聞こえてくるのは「自分の近くに学校があってほしい」という思いだけのようだ。

る。

素晴らしい学校を造ることが、この協議会に選ばれた私たちの責任だと思う。「学校が 100m 離れた」「学校が端っこになった」「通学時間が 5 分から 30 分になった」などといった意見を聞くと、それを問題にしていることが非常に残念でならない。

B 委員

建設地を決める際には、その過程に関わらせていただきたい。知らないところで決められるのは不安なので、決定前にぜひ教えていただきたい。

C 委員

学校関係者や教育委員会の方々はプロフェッショナルなので、当然、どの子どもたちにも平等に利益がある場所に学校が建設されることは間違いないと思う。そんな辺鄙な場所に学校を建てるわけがないと信じている。

会長

場所の選定については、この協議会である程度の方向性を示せば良いと思う。

B 委員

特定の場所が良いとか、嫌だということではなく、みんなで納得できるところで決めることが大切だ。

E 委員

コミュニティ形成にとっても非常に重要だと思うので「玉穂地区の中心」に学校を設置してほしいと要望することはできるのではないか。玉穂地区には 2 つのコミュニティが存在していたが、統合されることで 1 つの新しいコミュニティが形成される。「玉穂地区の中心部には公共施設や子どもたちが楽しめる場所などが集まっているため、玉穂地区の中心に学校を建設してほしい」といった形で要望を伝え、場所を特定するのではなく、「地区の真ん中」という理由で、この点を強調することで、意見がまとまると思う。最終的にそのような形で文書を作成していただければと思う。

事務局

出た意見をまとめさせていただき、要望があればその旨を記載し、報告書を提出する。ただ、要望と異なる場所になった場合、例えば、「地区の中心部に建設できない」となった場合のフォローアップは重要だと思う。少し離れた場所になった場合にはスクールバスを導入するなど、事前に考慮すべき対策をこの会議で話し合えると非常に有意義ではないか。より現実的な形で、こうすればどうかという具体案まで議論できるとベストだと思う。

もちろん、出された意見をまとめた上で、作成した報告書の案はこの協議会に諮ったうえで教育委員会には提出させていただく。

会長

本日、意見はまとまらなかったが、色々と良い意見をいただけた。

もう一度、事務局と三村小学校運営協議会において、天井材の件で確認していただきたい。その後、もう一度協議会を開催する。
本日はありがとうございました。

3. 閉会

事務局

次の開催は通知でお知らせする。
ただいまをもちまして、第2回の協議会を終了させていただく。本当に長時間ありがとうございました。